

| | |
|-------------|----------|
| 群 教 セ | F08 - 01 |
| | 令5.284集 |
| | 生徒指導 |

自己判断しながら 学校生活を送ることができる生徒の育成

——校則を見直すための議題設定とICTの活用を通して——

特別研修員 納谷 厚司

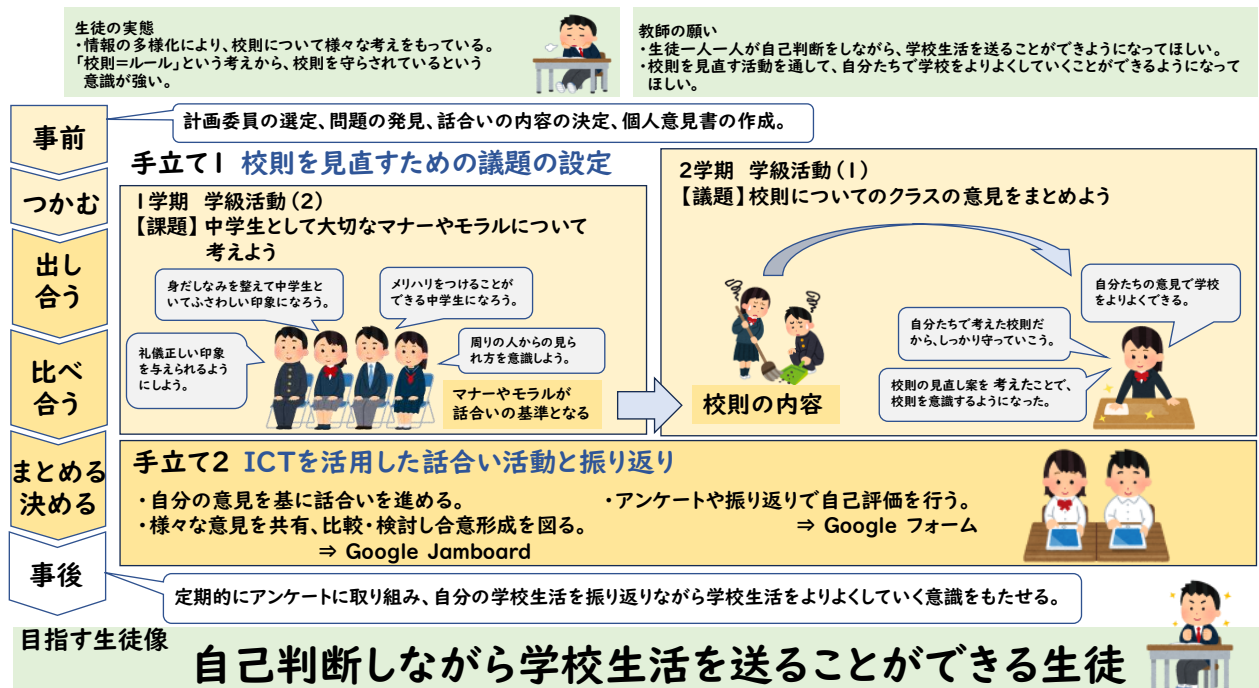
I 研究テーマ設定の理由

令和4年に改訂された生徒指導提要の「3.6.1校則の運用・見直し(3)校則の見直し」では、「校則を制定してから一定の期間が経過し、学校や地域の状況、社会の変化等を踏まえて、その意義を適切に説明できないような校則については、改めて学校の教育目的に照らして適切な内容か、現状に合う内容に変更する必要があるか、また、本当に必要なものか、絶えず見直しを行うことが求められます。」とある。「(4)児童生徒の参画」には、「校則の見直しの過程に児童生徒自身が参画することは、校則の意義を理解し、自ら校則を守ろうとする意識の醸成につながります。」とあり、校則の見直しの重要性が記述されている。

誰もが容易に教育の情報や校則の見直しについての知識を手に入れられるようになってきており、研究協力校においても、生徒や保護者からの学校への期待や変化を求める声が強まっている。「校則＝ルール」という考えをもっている生徒が多く、校則を守らされているという意思が強い。また、校則に対する興味が薄い生徒も多い。さらに、校則には曖昧な記述が多いことから、教員によって指導の基準が違うことも課題である。学級活動を通して、校則の見直し案を考え、その案を基に学校全体で話し合いながら校則を見直していくことで、生徒一人一人が校則を意識し、自己判断しながら学校生活を送ることができると考え、上記のとおり研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

一人一人が校則について考えることで、校則への関心が高まり、自分たちで考えた校則であることから守ろうという意識をもち、自己判断しながら学校生活を送ることができると考え、以下の手立てを取り入れた。

手立て1 校則を見直すための議題の設定

1学期 学級活動(2)

課題「中学生として大切なマナーやモラルについて考えよう」

様々な職種の方々の服装の違いや心構えについて考えることで、他者からの見られ方を意識しながら、中学生として大切なことを押さえる。

2学期 学級活動(1)

議題「校則についてのクラスの意見をまとめよう」

生徒手帳を参考にして、校則について見直しが必要な部分を一人一人が考え、その意見を基にクラスとしての見直し案をまとめる。

手立て2 ICTを活用した話し合い活動と振り返り

自分の意見を基に話し合いを進める場面や様々な意見を比較・検討し合意形成する場面において、Google Jamboardを使用し、意見交流の活性化やクラス全体で共有する環境を充実させる。アンケートや振り返りで自己評価を行う場合において、Google フォームを使用することで、集計作業の効率化を図る。

III 研究のまとめ

1 成果

- 「校則を意識して学校生活を送っている」と回答した生徒は、実践前には30.6%だったが、1学期の学級活動（中学生としての大切なマナーやモラルについて考えよう）の実践後には57.7%に増えた。また、2学期の学級活動（校則についてのクラスの意見をまとめよう）の実践後には96.3%の生徒が意識できるようになった。実践前には校則に対して意識の低かった生徒たちが、校則に対して関心をもつことができるようになったと考えられる。
- 校則を見直す案を考えるために、生徒手帳を参考にして、自分の意見をまとめている姿が見られた。校則の見直しについて話し合う活動を通して、今まで意識が低かった校則について深く理解できたと考えられる。
- 校則の見直しのための学級活動を実施したことで、生徒は校則への意識が高まり、校則を自分事として捉えて、自己判断しながら学校生活を送る姿が見られるようになった。また、校則に関するアンケートを行事ごとに行ったことで、学校生活の中での校則の必要性を実感させることができたと考えられる。
- ICTを活用して話し合うことで、全体で意見を共有することができ、瞬時に全ての生徒の意見を確認することができるため、多様な意見に触れ意見交流が活発になった。

2 課題

- 校則の見直しについて考えることで、生徒が自己判断しながら学校生活を送ることができるようになると思うが、定期的に見直しが必要になるため、継続的に実践を行っていく必要がある。
- ICTの活用において、意見交流の際にGoogle Jamboardを使用したことで、意見交流が活発に行われたり瞬時に共有できたりしたが、生徒の実態に応じてGoogle Jamboardを使用した比較・検討の活用方法を工夫するとともに、合意形成を効率的に行うためのアプリケーション等の工夫を行うことが大切である。

実践例

【学級活動(1)】

1 議題名 「校則についてのクラスの意見をまとめよう」 (第2学年・2学期)

2 本議題について

本議題は、中学校学習指導要領に示されている学級活動の内容(1)学級や学校における生活づくりへの参画のウ「学校における多様な集団の生活の向上」を扱う。学校生活を送る上で意識すべき校則について、気になるところを自分たちで出し合い、見直し案を考えることで、自分たちの生活をよりよい方向へと発展させていくことをねらいとする。校則について、学級としての見直し案を話し合っ決めて活動を通して、学校生活をより充実したものにできるようにする。そのために、一人一人の意見を十分出し合っ班で検討した後に、全体での話し合いを行う。そして、集団の生活における校則を理解した上で、自分事として捉えることができるようにする。自分たちで考えた校則だからこそ、校則に対する意識が高まり、自己判断しながら学校生活を送ることができるようになる。と考える。

以上のような考えから、本議題では以下のような指導計画を構想し実践した。

| | |
|-------|---|
| 目標 | <p>(1) 知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で他者と協力して役割を果たすことの意義を理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けられるようにする。 <p>(2) 思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な集団の生活における校則を理解した上で、校則の見直し案を考えることができるようにする。 解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、実践することができるようにする。 <p>(3) 学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活をよりよくするための課題を見だし、他者と共働しながら解決し、学校生活の向上を図ろうとする態度を養う。 |
| 評価規準 | <p>(1) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で他者と協力して役割を果たすことの意義を理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。 <p>(2) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な集団の生活における校則を理解した上で、校則の見直し案を考え、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、実践している。 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級や学校における課題に対し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して学校生活の向上を図ろうとしている。 |
| 過程 | <p style="text-align: center;">主な学習活動</p> |
| 事前の活動 | <ul style="list-style-type: none"> 校則を見直す話し合いをするために、見直しが必要だと思う校則について考える。 自分の意見を個人意見書にまとめる。 Google フォームを使い、アンケートの作成と集計を行う。 |
| 本時の活動 | <ul style="list-style-type: none"> クラスとしての校則を見直す案を考える。 見直しが必要だと思う校則について話し合い、クラスの意見としてまとめる。 Google Jamboardで意見を交流し、合意形成する。 |
| 事後の活動 | <ul style="list-style-type: none"> 校則を意識しながら学校生活を送る中で、新たな疑問や改善点を考える。 学校生活を送る中での校則への意識や考え方について、アンケートを提出する。 Google フォームを使い、アンケートの作成と集計を行う。 |

3 本時及び具体化した手立てについて

手立て1 校則を見直すための議題の設定

生徒手帳を参考にして、校則について見直しが必要な部分を個人意見書にまとめ、その意見を基に班会議や全体での会議を行い、クラスとしての見直し案をまとめる。

手立て2 ICTを活用した話し合い活動と振り返り

自分の意見を基に話し合いを進める場面や様々な意見を比較・検討し合意形成する場面において、Google Jamboardを使用し、意見交流の活性化やクラス全体で共有する環境を充実させる。アンケートや振り返りで自己評価を行う場合において、Google フォームを使用し、校則に関するアンケートや授業に関する振り返りをさせる。Google フォームを使用することで、集計作業の効率化を図る。

4 授業の実際

(1) 事前の活動（校則を見直すための議題の設定）

校則について見直しが必要な部分とその理由について、Google フォームを使って、生徒一人一人が生徒手帳を見ながら回答した。質問の内容としては、「校則の見直しが必要な部分とその理由」とし、自由記述して提出させた。提出された意見を計画委員と確認して、クラスで話し合う議題について決定した。決定した議題についての自分の意見を個人意見書にまとめることで、本時の活動で校則について意見交流をできるようにした(図1)。

| 見直しが必要な校則 | 髪型について(長さ・髪型・縛る位置等) |
|---|--|
| 自分の考え <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">必要がある</div> ・ 必要がない | 理由 ツープロックは禁止になっているが、耳が出ていて清潔感がある髪型だと思う。また、主流な髪型になっていると思う。 |
| 班会議中のメモ | ピンの数。女子の髪を縛る位置。 |

図1 個人意見書(班会議の基になる)

(2) 本時の活動（ICTを活用した話し合い活動と振り返り）

事前の活動で決定したクラスの議題(髪型)について、各自で作成した個人意見書を基にクラスでの見直し案を考えた。1回目(1学期)の学級活動で他者からの見られ方について学んだことを検討する際のポイントとして掲示し、校則の見直し案を考えるときの参考とした(図2)。

「中学生として大切な印象」ポイント

- ・真面目で礼儀正しい。
- ・メリハリをつける。
- ・けじめがある。
- ・身だしなみを整える。
- ・周りから見てもよい印象。

図2 検討する際のポイント

班会議では、個人意見書を基に、各班でGoogle Jamboardに意見をまとめた(図3)。事前の学習で個人意見書を作成したことで、自信をもって自分の意見を述べる姿が見られた。

クラス全体での会議では、班でまとめた意見を基に話し合いを行った。Google Jamboardを使用して意見をまとめたことで、瞬時に各班の意見が表示され、全ての班の意見を一人一人が俯瞰することができるため、班同士の意見を比較することに有効であったと考える。また、クラスの意見をまとめるにあたり、共通点と相違点に着目させることで、「縛る位置」「個人の判断に委ねる」「授業に支障がないような」など、次々と意見の交流が行われた。計画委員を中心に話し合いを行ったが、停滞した時や意見がまとまらない時には、少人数での話し合いや検討する際のポイントに戻ることで、意見をつなげたり削除した

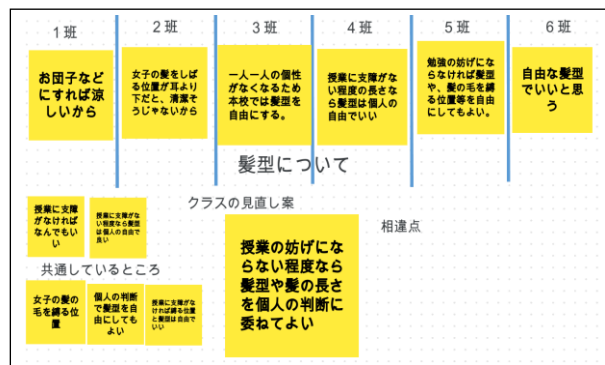


図3 校則の見直し案が決定した画面

りしながら、「授業の妨げにならない程度なら髪型や髪の長さを個人の判断に委ねてよい」と合意形成することができたと考えられる。

本時の振り返りの場面では、Google フォームを使ってアンケートと感想が書けるものを準備し実施した。生徒の感想には、「自分の考え以外の意見もあり、校則について深く考えることができた。」や「校則について改めて考えることができた。変えるとしたら具体的にどのようなするかを考えるのが難しかった。これからは校則を意識して生活していきたい。」「校則について自分の考えを伝えることができた。校則は学校生活にとって大切なものだと改めて思った。」などの意見が書かれていた。アンケートからも、校則についての関心が高まったことが分かる(図4)。今後校則を意識して学校生活を送ろうとする姿勢が感じられた。

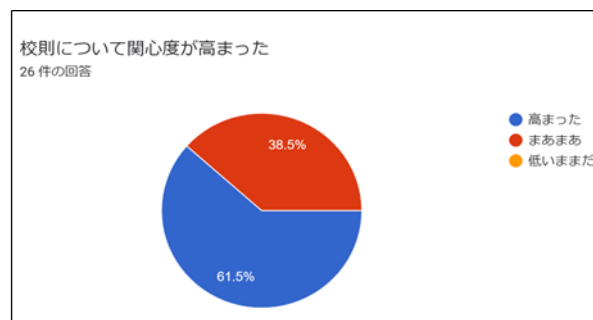


図4 本時の振り返り（アンケート）

(3) 事後の活動（ICTを活用した振り返り）

校則に対する意識と校則を意識して学校生活を送れているかについて、行事（職場体験）後にGoogle フォームを使ってアンケートと感想が書けるものを準備し実施した。生徒の感想には、「校則を守ることは、社会のルールやマナーを守ることにつながる。」や「職場でのルールと校則は似ているところがある」などの意見が書かれていた。学校生活だけでなく、校外での活動の時にも校則を意識して行動できた生徒が多く見られた(図5)。

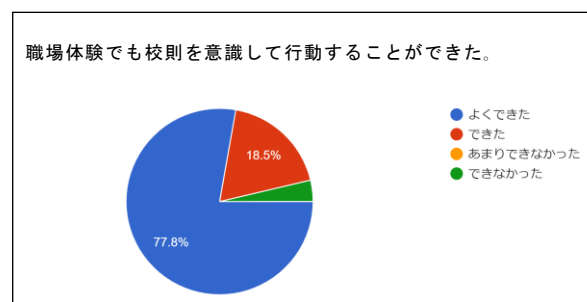


図5 職場体験後のアンケート結果

また、行事の際にアンケートを実施することで、生徒の校則への意識を持続できるようにした。学校行事や全校集会等があるときには、学校全体で校則について共通理解を図っている。生徒の中で校則に対する意識が変化したことにより、生徒は身だしなみを整えたり、寒い日には体育着の中に着るものを工夫したりするなど、自己判断しながら学校生活を送る様子が見られた。

5 考察

手立て1の「校則を見直すための議題の設定」については、「中学生としての大切なマナーやモラル」についての話し合いを行うことにより、生徒一人一人が他者からの見られ方を学ぶことができ、校則の見直し案を考える際の大切にポイントとなり、「校則として大丈夫か」「中学生としてよいのか」など意識して考えることにつながった。「校則の内容」についての話し合いでは、実際に校則についての見直し案を考えることで、自分たちで校則を変えるために考えるということを実体験し、校則の意義や必要性に改めて気付いたり校則を自分事と捉えたりすることにつながった。また、自分たちで校則を考えるために、校則を理解しようと生徒手帳を読み返し理解を深める姿が見られるようになった。理解を深めることで、学校生活の中で自己判断しながら学校生活を送ろうとする姿が見られるようになってきた。

手立て2の「ICTを活用した話し合い活動と振り返り」では、ICTを活用することで、意見を入力する段階で班のみならず、クラス全体で意見を共有することができた。瞬時に全ての生徒の意見を確認することができるため、多様な意見に触れ意見交流が活発になった。また、アンケート機能を使用することにより、意見の集約や議題設定をする際に有効であった。さらに、振り返りも短時間で行うことができるため、話し合い活動に十分な時間を使うことができたと考えられる。

以上のことから、本研究の手立ては、自己判断しながら学校生活を送ることができる生徒の育成に有効であったと考える。

6 資料

本報告書に掲載されている Google Jamboard 及び Google フォームは、Google LLC の商標又は登録商標です。